

---

# 死に神

木月 愛美

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死に神

### 【Nコード】

N2163C

### 【作者名】

木月 愛美

### 【あらすじ】

「みんなみんな死んじやえばいいのに」友達の言葉から始まる。

「みんなみんな死んじやえばいいのに」

麻美が言った。

わりと綺麗な教室の黒板に、先生が文字を書き連ねる。

麻美の言葉のせいで、わたしの思考は過去へ飛んだ。

「靴、履き代えない？」

わたしが通っていた私立の小学校は、革靴で床の上を歩くことになつていた。洋風を気取っているのだろう。だが、遊び盛りの小学生に一日中革靴で過ごせ、というのも酷である。だから学校指定の運動靴に履き代えてもいいことになっていた。

「いいよ」

小学生つてどのくらい子供だったっけ。その時から三年しか経つてないのに、想像もできない。

靴箱から運動靴を取り出し、床に落とす。革靴を脱いで、運動靴に足を入れる。それからしゃがんで革靴を持ち、靴箱へ運ぶ。その一連の動きを、邪魔した。

「みんなみんな死んじやえばいいのに」

ちおりちゃんが言った。

わたしはこの時、どういう気持ちになつたっけ。思い出そうとしても、思い出せない。ただ、革靴と靴箱の擦れる音だけが蘇る。

そう。ただこういうことが前にもあった。それだけ。

どうしてだろう。どうしてわたしの身に、同じようなことが二回も起こつたのだろう。そう考えてみたら、一つの答えが思い浮かんだ。とても馬鹿らしい答え。

わたしが死に神だからだ。だからわたしに願いが集まる。死に神のあんたにならできる、って。

チヨークが黒板を叩く。その音が頭の中で轟く。またわたしは下らないことを考えた。わたしが死に神なのだとしたら、チヨークが

黒板を叩く音はカウントダウンなのかな。世界滅亡までのカウントダウン。笑っちゃうよ。

コン。コン。コン。コン。

授業の終わりを知らせるチャイムが鳴った。チャイムの音を合図にして、他の音も鳴った。言葉にして表すとすれば、“ぼんっ”とでもいう感じだ。

その音に気付いたのは、窓の外を眺めていたわたしくらいのものだろう。

「教科書、取りに行かない？」

麻美は気付いてない。麻美が願ったことなんだよ？

「いいよ」

わたしは同意した。喧嘩なんてしたくもないし。

ただもう一度窓の外に目を向けると、確かに道路の真ん中に猫の死骸が見えた。小学生だったあの日は、帰りの電車が人身事故で止まったつけ。死に神パワー、おそるべし。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2163c/>

---

死に神

2010年10月11日16時05分発行